

レンゲ、ノミノフスマ……野の花が花盛り

他には少ないコオニタビラコも——田んぼ周辺で

4月になっても、はっきりしない天気が続くが、春の陽光が輝く日には、各田んぼの畦で春の野の花が一斉に咲き誇っている。レンゲはレンゲ田んぼの畦のほか、サクラ、ツクシ田んぼの間の畦にも。毎秋、種子を蒔いているのに、



その割には花が少ない＝写真左。

スマイレ田んぼの畦で、ひときわ鮮やかなのがノミノフスマ＝写真右。3ミリほどの花だが、アイボリーがかかった白が目



を奪う。

フスマは「衾」と

書く。夜具のことだが、名前と違う洗練された美しさだ。花

弁は5枚だが、2つに深く切りこんでいるので、10枚に見える。

春の七草の一つで、ホトケノザとも呼ばれるコオニタビラコも、同じ畦に上品な黄色い花を咲かせている＝写真右。かつては鎌倉の



どこでも咲いていたが、いまはめったに見られない。広町緑地でも、私たちが田んぼを復元した結果、群生する姿を見られるようになった。

紫がかかった青のカキドオシは、茎が蔓(つる)になり、垣根をくぐりぬけて伸びるところから命名された＝写真左上。



近年、緑地で増殖している。葉はシソのように、丸くぎざぎざしている。

青いオオイヌノフグリも無粋な命名だが、春一番に咲く可憐な花だ＝写真左。



黄色いタガラシは、味が辛いので、その名がある。有毒。花はやはり有毒のキツネノボタンに似ているが、葉が厚ぼったくて艶があり、毛がないので見分ける＝写真右。



ほかに、白いタネツケバナ、実は赤いが、花は黄色いへびイチゴなども春を謳歌している。